

高槻名誉市民を

17号

語り継ぐ会会報

平成27年9月1日

戦後70年を迎え、往時に活躍した高槻名誉市民『礪村弥右衛門』、『高碕達之助氏』の軌跡を追う講座をこの時期に開催していることは、歴史から学ぶことの大切さを今更ながら実感しています。今後も『名誉市民を考える会』を通じて、多くの市民の皆様方と「歴史から学ぶことの大切さ」を共有できればと考える次第です。(村上)



高槻市マスコットキャラクター『はにたん』

【礪村彌右衛門第二回講演】の概要

弥右衛門が一人前になる転換期となったのが大正6年大塚切れである。10月1日午前8時40分大塚堤防が200m決壊し、大冠から大阪市淀川右岸24km迄が水没した。川からの流れを食い止める工事は鴻池組が請け負うが、鴻池組だけでは食い止めることが出来ず、高槻工兵隊250人と歩兵三個中隊が動員されると共に、2000人の運搬人と数百人の見物人が手を貸し、市民皆が参加し、石俵を運び入れる事で川からの流れを食い止めることが出来た。結局人間の力でないとできないと農民たちはこの時の感動を語り継いだ。堤防が復旧すると、次は大冠村、高槻町に入り込んだ水を落とさなければならないが、ここでも水を落とす側と落とされる側での闘争が起こった。この闘争解決の為、秘密裏に大冠村の植場平、弥右衛門など代表と13ヶ村代表が集まり秘密交渉会議を行った。『同じ百姓ではないか、苦しみは一緒である』との対等・平等のもと調停が成立した。この交渉を見ていたのが弥右衛門である。弥右衛門が生涯を政治にかけると決めたのはこのような騒動の終結を経験したからである。弥右衛門が府会議長を頂点とする地方政治に貢献し抜いたのも、この時の経験が大きかったと思われる。



大塚切れと、復旧工事

【礪村彌右衛門第三回講演】の概要

大正6年には府議員になり、大冠村の村長にも選ばれた。その時期は郡制で茨木に役所があり中心であった。弥右衛門は何とか高槻を活性化させたいと考えていた。府議員は2期で終了した。昭和になると普通選挙になり、基盤を作り直すという考えから3期目には立候補しなかった。2期目終了後は高槻銀行頭取に就任し、地元の金融機関と地域に、より密着して足元から初志を貫徹する方針を取った。そして、地域活性化のため、必要な産業組合の整備や水利水防事業を整備し、展望が持てる市町村を確立しなければと考えた。まず新京阪電鉄(現阪急)開通を目指した。昭和の初めまでに天六～四条大宮間が開通し、高槻は大阪・京都の真ん中の位置づけとなった。昭和2年には、日本で最初の5年制医学専門学校「大阪高等医学専門学校」が高槻に創立された(現在の大阪医大)。他にも、京大化学研究所・京大温室・京大農場などがある。高槻駅周辺の価値ある建物は、大正末から昭和の初めにかけて弥右衛門の政治力・経済力で実現されたものである。



新京阪電車



大阪高等医学専門学校



京都大学農園本館

【名誉市民を考える会－高碕達之助編】

8/10 第三回「東洋製罐設立から満州」、8/24 第四回「ソ連軍満州侵攻から莊川桜の移植」を開催させて頂きました。同じ時代を生きて来られた宇津木先生から、高碕達之助が生き抜いてきた苦難の時代背景を語って頂き、我々も次世代に先人の偉業と歴史を語り継いでいくことの大切さを学ぶことが出来ました。第三回までの講演記録をフェースブック、ブログ上で公開中です。20分のダイジェスト版ですが、宇津木先生が語られる高碕達之助に触れてみませんか。礪村弥右衛門編も公開中です。高碕達之助編も残り後二回です。いよいよ政治家としての高碕達之助編に入ります。戦後の日本経済発展に努めた高碕達之助に会ってみませんか。ご参加お待ちしております。



第五回 9月14日(月)、第六回 9月28日(月)

【第11回たかつきNPO協働フェスタ参加】

日時 2015年9月12日(土)

場所 高槻市総合センター1階展示室他

当会も展示コーナーで参加して、高槻名誉市民を紹介させて頂きます。展示コーナー以外にも、遊びコーナー、フリーマーケットもありますので、ご家族でお越しください。お待ちしております

発行：高槻名誉市民を語り継ぐ会
ブログ

<http://blog.livedoor.jp/takatsukimeiyoi5/>
FB

<https://www.facebook.com/groups/167866516706202/>